

第 65 回「言葉の院外処方箋」

『嵐の後に、風が来る ～ 常に沈着である ～』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

昨日(2021年7月11日)は、我が家の周辺は、凄い雷と大雨であった。夕方には、雨上がりの空に、美しい大きな虹が見えた。「人生とは、嵐の後に、風が来る」ことを痛感した。丁度、東久留米駅で、知人の親子と「哲学外来」であった。まさに、「人生は心がけにより、逆境も順境とされる」(新渡戸稲造)の実践である。筆者が作詞したCD『ほっとけ 気にするな』も紹介した。大変貴重な充実した時であった。

筆者は、若き日から、内村鑑三(1861-1930)の『代表的日本人』、新渡戸稲造(1862-1933)の『武士道』、岡倉天心(1863-1913)の『茶の本』を繰り返し熟読したものである(画像)。筆者は丁度20年前(2001年)に、岡倉天心(覚三)著『茶の本』(村岡博 訳 1929年岩波文庫)を拝読した。

**「個人を考えるために 全体を考えることを忘れてはならない」**

**「おのれを虚にして 他を自由に入らすことのできる人は、すべての立場を自由に行動することができるようになるであろう」**

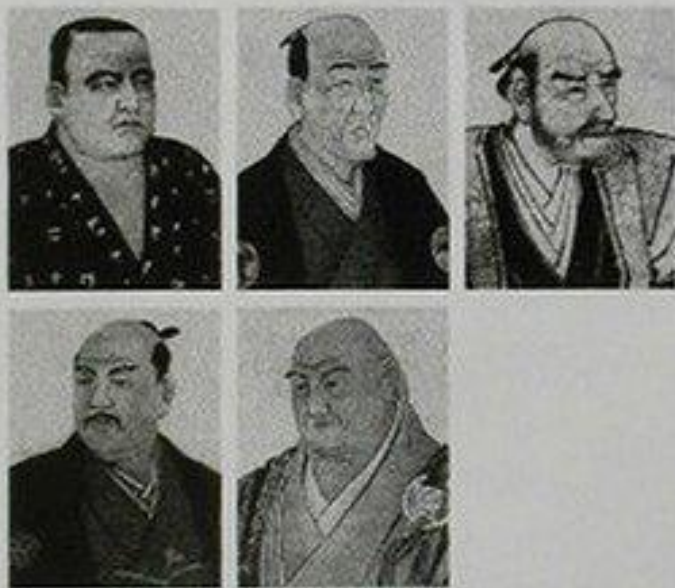
の文章には赤線が引いたのが、今回、鮮明に思い出された。

内村鑑三の『代表的日本人』(1894年)、新渡戸稲造の『武士道』(1900年)、岡倉天心の『茶の本』(1906年)はともに英語で書かれ、日本の文化・思想を西欧社会に紹介したものである。英語で、日本(人)を深く、広く、丁寧に海外に紹介出来た人物は、この3人ではなかろうか! この3人は、「英語力と教養」を備えた明治以降の日本が誇れる人物である。明治時代の3人の「格調高い英語力」と「深い教養」と「高い見識」には驚くばかりである。100年後の現代に生きる我々は、「真の国際人の定義」を再考すべき時であろう。『真の国際人』とは、「賢明な寛容」を持ち、「能力を人の為にする」人物であり、明治維新以降、「内村鑑三・新渡戸稲造・岡倉天心」は、『真の国際人』のモデルであろう! まさに、『真に勇敢なる人は常に沈着である。——吾人はこれを「余裕」と呼ぶ。それは屈託せず、混雑せず、さらに多くをいれる余地ある心である』(新渡戸稲造『武士道』より)

# 代表的日本人

内村鑑三著

鈴木範久訳



青 119.3  
岩波文庫

# 武士道

新渡戸稲造著

矢内原忠雄訳



「武士道はその表  
徴たる桜花と同  
じく、日本の土  
地に固有の花で  
ある」——こう  
説きおこした新

渡戸（1862 - 1933）は以下、武士道の淵源・  
特質、民衆への感化を考察し、武士道がい  
かにして日本の精神的土壤に開花結実した  
かを説き明かす。「太平洋の懸橋」たらんと  
志した人にふさわしく、その論議は常に世  
界的コンテクストの中で展開される。



青 118-1  
岩波文庫

# 茶の本

岡倉覚三著

村岡 博訳



茶の湯によって精神を  
昇華し、文藝の礼法を  
きわめるのが茶道であ  
る。その理想は、種で  
いうところの「自世了  
解」の愉りの境に至る  
ことにある。この本は、  
そうした「茶」を西洋人に理  
解させるために著者(1862-1913)が英文  
で書いたもので、単なる茶道の解説書では  
なく、日本に関する特色の文明論ともい  
うべきもの。(解説・福原麟太郎)



青 115-1  
岩波文庫